

# 優良事例の紹介

## JA津南町たい肥センター

### モデル事例となる事項

持続循環型農業による安全・安心で付加価値のある農作物の生産への取り組み

### 堆肥センター名称等

- (1) 名称 JA津南町たい肥センター
- (2) 所在地 新潟県中魚沼郡津南町大字赤沢10445-2
- (3) 設置者(運営者) 津南町農業協同組合
- (4) 連絡先 JA津南町営農部 025-765-3123

### 地域の概要

津南町では、雄大な河岸段丘に展開する広大な農地を生かし国営苗場山麓開発事業のもと「魚沼産コシヒカリ」・アスパラ・人参・花卉・葉たばこ・野沢菜など多品目にわたり栽培が行われている。

耕地面積は、田 2,040ha、畑 1,288haである。

### 地域の家畜飼養状況

津南町では平成18年2月現在で、乳用牛269頭(7戸)、肉用牛100頭(5戸)、豚12,683(10戸)頭が飼養されている。

### 利用畜産農家の家畜飼養状況と原料ふん等の搬入量

乳用牛20戸、肉用牛3戸、豚3戸(津南町以外の農家を含む)

年間あたり家畜ふん尿5,340t、きこの廃菌床4,400t、粃殻135t、野菜残渣300t

### 施設概要

JA津南町たい肥センターは平成2年度新農業構造改善事業、平成13年度新山村地域農林漁業特別対策事業により整備された。開放攪拌と堆積処理により、年間約6,000tの堆肥を生産している。堆肥の需要を満たすために町外の畜産農家からも家畜ふんを搬入している。

### 平成17年度堆肥生産販売実績

平成17年度は5,735tの堆肥が生産され、うち5,634tが販売された。

利用耕種農家は水稲農家や野菜農家などである(表)。

### 料金設定

バラ堆肥販売価格(配達料込み)は、町内向け1tあたり5,000円、町外向け7,000円。

袋詰め堆肥の販売価格は、1袋336円。

散布料(堆肥代+運搬+散布)は、水田30aあたり15,000円(2t散布)、畑の場合、散布量1トンあたり2,000円。

### 経営収支状況

平成17年度は、収入4,673万円に対し、費用は3,038万円となっており、事業収益は1,635万円となっている。

### モデル事例の具体的説明

堆肥の供給は、津南町を中心とした稲作、畑作、一

### 堆肥生産量

単位：トン

堆肥 A	家畜ふん搬入量	菌床搬入量	残渣搬入量	製品出来高
	5,340.0	4,539.0	327.6	5,179.7
堆肥 B	汚泥搬入量	菌床・粃殻搬入量	豚ふん搬入量	製品出来高
	704.7	387.6	140.9	555.0

### 堆肥販売実績

単位：トン

作目	堆肥 A	堆肥 B	作物計	作目	堆肥 A	堆肥 B	作物計
アスパラ	3,079.0	281.0	3,360.0	野沢菜	239.0	72.0	311.0
人参	142.5	24.0	166.5	一般野菜	723.5	103.0	826.5
加工トマト	226.5	7.0	233.5	水田	227.5	0.0	227.5
花卉	257.5	48.5	306.0	袋詰堆肥	127.5	0.0	127.5
たばこ	75.0	0.0	75.0	合計	5,098.0	535.5	5,633.5



水田への堆肥散布



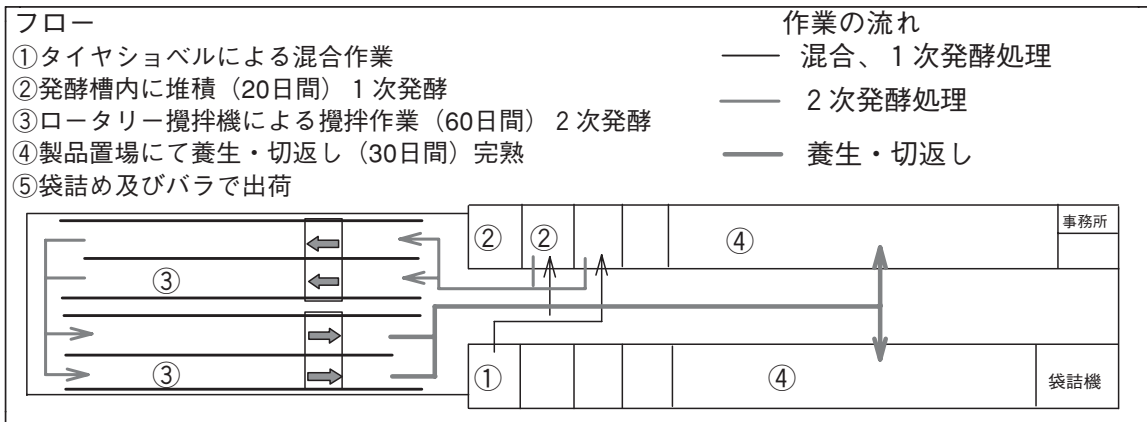
散布圃場 魚沼産コシヒカリ



堆肥センター全景



2次発酵処理（攪拌機）



般家庭に供給、バラ堆肥は4tダンプで圃場に配達、又はセンターでの自己引き取りによる。

対象作物は、水稲・アスパラ・人参・スイートコーン・キャベツ・加工トマト・野沢菜・花卉・タバコ・その他一般出荷野菜等である。

散布量は、10a当たり水稲700kg、アスパラ6t、人参・スイートコーン・キャベツ・加工トマト3t、タバコ1.5t、花卉1t、その他野菜1～3tである。

水稲は堆肥センターと町農業公社連携のもとに委託散布を実施、畑作は各地区共同組織及び個人散布、一部では農業公社・コントラクターによる委託散布もある。JA津南町では安全安心な作物の供給と付加価値のある農作物を生産するため、以下の取り組みにより地力増進、環境保全型農業を推進している。

エコファーマー認証の推進と、認証者に対する堆肥助成による、堆肥の積極的な利用に基づく肥培管理と、減農薬減化学肥料栽培の推進。

量販店との連携により、食品系バイオマスの堆肥化

及び田畑への施用と、生産物の積極的な販売を図る総合リサイクルシステムを構築。現在、リサイクルシステムの拡大拡充のために登録再生利用事業者申請を準備中。取り組みの結果、堆肥散布の効果について高い評価が得られている。

稲作では、収穫後に稲わらと堆肥をすき込み、土づくりを進めた結果、食味の向上、倒伏の軽減等につながった。

畑作では、収量の安定性、特にアスパラにおける堆肥施用の効果が大きい。

魚沼産コシヒカリ、エコファーマー農産物等、消費者のニーズに配慮した農産物が好評である。

#### 堆肥センター運営上の課題

春先に集中する堆肥需要への対応（現在、春散布を少しずつ秋散布に移行）と、積雪により出荷できない冬季間（約5ヶ月）の製品・原料のストックヤードの確保。